

会議録

会議の名称	令和4年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会					
開催日時	令和5年3月24日（金曜日）			開会	午前10時	
				閉会	午前12時	
開催場所	東松山市総合会館多目的ホールA・B					
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 各プロジェクト・連絡会議からの報告 (2) その他 4 その他					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数		0人	
委員出欠状況	会長	朝日 雅也	出	委員	澤井 太二郎	出
	委員	丹羽 彩文	出	委員	矢部 智之	欠
	委員	岸澤 進	欠	委員	浅野 聖子	出
	委員	武田 耕典	出	委員	羽鳥 良江	出
	委員	松井 治子	出	委員	林 俊之	出
	委員	上野 秀爾	出	委員	狐塚 汐里	出
	委員	池永 和美	出	委員	小暮 晴彦	欠
	委員	大野 喜裕	欠	委員	森田 暢宏	欠
	委員	恵賀 正治	欠	委員	山崎 裕司	出
	委員	奥村 一彦	欠	委員	山口 聡	欠
	委員	若尾 勝己	欠	委員	榎本 淳也	欠
	委員	戸森 健治	出	委員	富樫 正紀	出
	委員	杉浦 翔太	出	委員	新井 亮子	出
	委員	落合 要之	出	委員	久保田 慶一	出
	委員	吉田 茜	欠	委員	小谷野 貴久	欠
委員	荻野 裕	出	委員	田島 信子	出	
事務局	健康福祉部 今村部長			健康福祉部 高荷次長		
	障害者福祉課 成川主幹			障害者福祉課 浅野主査		
	障害者福祉課 田ヶ谷主査			障害者福祉課 谷口主任		

次 第	顛 末
<p>1 開会</p> <p>事務局 (障害者福祉課 成川主幹)</p>	<p>本日は公私とも大変お忙しいところ、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今から「令和4年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会」を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会を担当いたします障害者福祉課の成川と申します。行き届かない点もあろうかと存じますが、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>はじめに、本協議会の会長であります、朝日会長よりご挨拶いただきます。</p>
<p>2 あいさつ</p> <p>朝日会長</p>	<p>— あいさつ —</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 成川主幹)</p>	<p>朝日会長、ありがとうございました。</p> <p>本日の会議の会議録作成にあたり、出席委員2人の方に署名をお願いしたいと存じます。本日の会議録につきましては、武田委員と羽鳥委員をお願いいたします。後日、会議録ができましたら事務局よりご連絡を申し上げますので御署名をお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。事務局より確認をお願いします。</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 谷口主任)</p>	<p>— 資料確認 —</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 成川主幹)</p>	<p>それでは、議事に入ります。議事につきましては、東松山市地域自立支援協議会開催要綱により、会長が進行を務めることとなっておりますので、朝日会長よろしく願いいたします。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>皆様のご協力をお願いいたします。議事に入る前に確認事項がございます。東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では公開・非公開の決定を会に諮って決めることになっています。公開の場合傍聴希望者がいらっしゃれば、傍聴いただくこととなります。事務局にお聞きいたします。本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 谷口主任)</p>	<p>いらっしゃいません。</p>

朝日会長	傍聴者はいらっしゃいませんが、本日の会議を公開の会議とし、会議資料や会議録を公表してよろしいでしょうか。
委員一同	— 異議なし —
3 議事	
朝日会長	それでは、議事に移ります。議事(1)「各プロジェクト・連絡会議からの報告」について、各プロジェクト・連絡会議から令和4年度の成果等を報告していただきます。質疑応答はすべての報告が終わった後でお願いしたいと思います。まず、「障害者進路支援連絡会議」から報告をお願いします。
木村リーダー	— 障害者進路支援連絡会議について報告 —
朝日会長	続いて「医療・福祉連携プロジェクト」から報告をお願いします。
南澤リーダー	— 医療・福祉連携プロジェクトについて報告 —
朝日会長	続いて「障害のある子どもの育ちと学びを支える連絡会議」から報告をお願いします。
田口リーダー	— 障害のある子どもの育ちと学びを支える連絡会議について報告 —
朝日会長	続いて「地域生活支援拠点連絡会議」から報告をお願いします。
林リーダー	— 地域生活支援拠点連絡会議について報告 —
朝日会長	続いて「普及・啓発プロジェクト」から報告をお願いします。
丹羽リーダー	— 普及・啓発プロジェクトについて報告 —
朝日会長	東松山市地域自立支援協議会とは、障害のある人が自立することは当然ですが、それだけの協議会ではなく、障害の有無に関わらず、暮らしやすいまちづくりを作っていくという意味で、東松山市が自立していく協議会だと考えます。 では、ただいま各プロジェクト・連絡会議より報告がございました。障害者進路支援連絡会議について何かご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

富樫委員	資料 8 頁の障害者雇用を行う東松山紙器工業（株）の取組として、障害特性に応じた対応とはどのようなことですか。また、資料 1 2 頁の中高生による職業体験において説明された特別支援教育コーディネーターが集まる連絡会とはどのようなことですか。
木村リーダー	東松山紙器工業（株）からは、障害者雇用に至った経緯や障害特性に応じた対応をどのように社内で展開しているかについてお話していただきました。具体的には、障害のある人と接するに当たり、気を付けることや指導方法、従業員への教育等になります。
田口リーダー	各小中学校には、特別支援教育コーディネーターが配置されています。支援が必要な子どもや保護者の相談を受け付けています。総合教育センターでは、コーディネーターが集まり、研修を行ったり情報交換を実施する場を設けています。コロナ禍のため、直近では開催されていませんでしたが、令和 5 年度に開催される連絡会には、「障害者進路支援連絡会議」と「障害のある子どもの育ちと学びを支える連絡会議」が参加し、各事業の説明をする予定です。
朝日会長	キャリアデザインフォーラムについて、ワークキャリアと限定してしまうと、仕事に向いている・いない等、対象を狭めてしまうため、ライフキャリアという視点で子どもたちの将来を考えたときに、特別支援教育コーディネーターにも進路を考える機会を持っていただくことに繋がっていくと思います。
戸森委員	資料 9 頁のキャリアデザインフォーラムについて、過去の開催と比べると、参加者数が減少していることはどのように分析していますか。
武田委員	資料 1 1 頁の中高生による職業体験について、平成 3 0 年度は 8 名参加されていますが、何名ぐらいの受入を想定して実施されていますか。
木村リーダー	参加者数が減少している理由としては、事務局の企画及び周知が課題と考えています。キャリアデザインフォーラムについては、キャリアというワードに対して、保護者はワークキャリアとして捉えてしまいます。学校への周知は先生から保護者にチラシを配付していただいていたのですが、ワークキャリアだと考え、そのままチラシを捨ててしまうことが最近の様子として分かってきました。周知の方法を変えていく必要があると感じています。また、年度によっては先生から保護者への案内の仕方が変わってきます。熱意のある先生から積極的に案内していただければ、参加者数が増えています。チラシの配付方法は工夫が必要だと思います。

	<p>います。中高生の職業体験についても、同じような理由になります。職業体験は自分の子どもに必要無いと感じる保護者が多いです。参加者の受入人数については、当日は、企業に本人、家族、連絡会委員が訪問します。緊急対応が必要になった場合に備えて、委員も同行しますので、8名程度の受入として、それぞれの会社で職業体験を実施することを想定しています。</p>
朝日会長	<p>続いて、医療・福祉連携プロジェクトについて何かご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。事業所からの立場で松井委員いかがですか。</p>
松井委員	<p>私たちの事業所は、精神障害のある人が9割程度利用しているため、医療的ケアとは関わりがありません。</p>
朝日会長	<p>医療的ケアのある人の対応について、医療・福祉連携プロジェクトに学校は参加していませんが、学校にも参加していただくことは重要だと考えます。また、医療的ケアのある人に関するプロジェクトですが、AI等のテクノロジーの発展により、医療的ケアを受けながら、就労や作業活動に取り組む人もいます。就労について、雇用され稼ぐことは難しいかもしれませんが、様々な方法により働き、社会参加することも視野に入れることが重要です。</p>
南澤リーダー	<p>学校の参加については、翌年度以降事務局としても準備を進めていきます。テクノロジーについても勉強になりました。</p>
朝日会長	<p>資料24頁では分かりやすい支援スキームが示されています。こちらは個々のスキームではなく、医療的ケアの対応が必要な人の全体像の支援スキームになります。個々のモニタリングのところでは、想定していない、インフォーマルな関わり合いを含めて地域で暮らしを支えていることを考えると、本人たちを中心として、どのようなことを希望しているのかについて個々にマッピング化することは可視化するという意味では重要な方法だと思います。</p> <p>続いて、障害のある子どもの育ちと学びを支える連絡会議について何かご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。</p>
戸森委員	<p>資料29頁では、巡回相談支援チームの実施状況について、東中学校の実施は、希望なしとされています。理由は分かりますか。また、令和5年度は南部の学校を対象に巡回相談を実施するとのことですが、南部とはどの学校を対象にしていますか。続いて、児童発達支援センターについてです。イメージの具体化に向けて、関係機関との調整を始めてい</p>

<p>田口リーダー</p>	<p>くことや入間市児童発達支援センターの見学について報告がありました が、東松山市の姿勢を教えてください。</p> <p>巡回相談について回答いたします。東中学校が希望しなかった理由は、 詳細な事情は分かりませんが、今回課題として報告させていただいたと おり、学校に直接周知の説明ができませんでした。そのため、今年の実 施を希望されなかったのではないかと考えています。続いて、北部と南 部の学校を対象とした巡回相談について、東松山市は市内に16校の小 中学校があります。巡回相談支援チームのメンバーには、特別支援学校 の教育コーディネーターや医療機関のスタッフ、相談支援事業所等が参 加しておりますので、1年間で16校全てに巡回相談を実施することは 難しいです。モデル事業を実施する中で、事業を継続していくために、 東松山市を北地区と南地区に分けて、1年毎に巡回相談を実施するこ ととしました。しかし、チームで巡回するのは1年毎になります。前年 度の巡回相談によりチームのメンバーと顔見知りになり、巡回相談はあ りませんが、個別にメンバーへ連絡をする学校もあります。事務局から は、巡回相談と個別の訪問を組み合わせながら、活用してもらいたいと 案内しています。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>児童発達支援センターについては、資料34頁のとおり、東松山市第 2期障害児福祉計画において、「障害のある子どもの育ちと学びを支える 連絡会議」を中核とし、地域支援機能を担うことで、児童発達支援セン ターの設置に代わる体制を整備すると定めています。関連する内容とし て丹羽委員から発言いただき、その後、障害者福祉課から回答をお願い します。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>私は（福）昴の理事長をしております。私たちの法人では、昭和45 年に知的障害児通園施設「青い鳥学園」の運営を引継ぎ、平成2年に児 童通園施設「こども発達センターハローキッズ」に改称いたしました。 当時、県内各地から医療的ケアの対応が必要な児童も含め、子どもたち が1時間から2時間をかけて通園し、さらに利用のため待機していただ く状況でした。良いサービスを子どもたちに届けたいという気持ちを持 ち、運営を続けていましたが、障害のある子どもたちが集まってくるこ とが終わらない、そのような状況であれば、専門の職員が地域に出てい って、幼稚園や保育園、小学校等の身近な場所で療育を含め教育を受け られる仕組みづくりを作っていこうと考え、取り組んできました。子ど もたちが地域の保育園や幼稚園に通園できるようになって、平成16年 に同センターを廃止いたしました。本取組について、東松山市も一緒に 協力や理解をいただき、市と契約をして、各種専門職の派遣を現在も続 けています。その後、制度ができ、国から児童発達支援センターを設置</p>

	<p>するよう示されました。東松山市ではそれに先んじて、インクルーシブな保育・教育を進めてきましたが、児童発達支援センターを設置すると、インクルーシブな保育・教育を無くすことになり、また無くすまでには我々が取り組んできたように長い期間が必要になります。そのため、東松山市では地域自立支援協議会を活用し、ナチュラルなサポートを届けたいという理由から児童発達支援センターの設置に代わる体制の整備を進めています。児童発達支援センターが見えづらいという面では、反省をして、改善を進めていく必要がありますが、過去の経過を含めて取組をしていることを説明させていただきました。</p>
<p>田島課長</p>	<p>当市の姿勢として、障害のあるなしに関わらず、ともに育ち、学ぶため、関係機関との協力や連携を進めています。児童発達支援センターを設置した場合、通いやすいという利点もありますが、しかし障害のある子どもだけ同センターに集まることは、インクルーシブな保育・教育から外れてしまいます。地域にある福祉施設に協力をいただきながら、地域で支えていくとしています。課題としては、建物が無いため、相談をする人は分かりづらいという点があります。相談の入り口について、今後整理をして、分かりやすい案内をする必要があります。これから取り組んでいきます。</p>
<p>新井委員</p>	<p>東松山市はインクルーシブな教育を掲げていますが、「「あなたは一般の学校には行けないよ」と言われた、どうしよう」と小学校の特別支援学級に通う子どもの保護者から相談がありました。先ほどの報告から、新型コロナウイルス感染症の影響により、会議の場に参加できないこともあるかと思いますが、小中学校との連携が図れていないのではと感じます。小中学校特別支援学級の先生は新任の先生が担当し、そのため経験が少ないこともあります。連携について、どのように取り組んでいくのか教えてください。また、田島課長から説明があった相談の入り口について、どこに相談したら良いのか分からないという相談が私にもありました。窓口はいつ頃設置してもらえるのか教えてください。</p>
<p>田口リーダー</p>	<p>連携については、新型コロナウイルス感染症の影響により連携が緩やかになってしまいました。しかし、その状況でも巡回相談支援を実施できたことは評価しています。今後については、学校の先生は異動もあることを含め、東松山市の取組や連携等について説明し、現場に入り続けていくことを大切にしたいと思います。</p>
<p>田島課長</p>	<p>資料37頁にある子どもの総合的な相談の窓口が相談の核になると思います。窓口としては、保健センター、子育て支援課、学校教育課となり、障害者福祉課も含まれますが、課名により敷居が高いと感じ</p>

<p>朝日会長</p>	<p>られる保護者もいらっしゃいます。時期に関しては、複数の課が関係していますので、具体的なことは申し上げられませんが、早急に連携を図り、整理ができるようにいたします。</p> <p>資料37頁にある「みんなでつくる児童発達支援センター」機能について、国が示す相談機能で敷居が低い相談窓口がこれからの課題であると田口リーダー、田島課長から発言があったとおり、どこの窓口に相談しても同じ機能を満たすことが東松山市方式の児童発達支援センター機能だと思います。引き続き、今後の全体会等で報告いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>続いて、地域生活支援拠点連絡会議について何かご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。</p> <p>緊急の対応について、受入事業所の整理が進んでいると報告がありました。市町村によっては、地域生活支援拠点のセンターを設置することもあります。多くの市町村は地域の事業所と機能の連携を図る面的整備を進め、緊急時等の対応を行っております。東松山市は着々と進められていると感じます。</p>
<p>戸森委員</p>	<p>資料47頁の令和5年度に向けて「地域における支援困難ケースへの対応について関係機関で協議する。」としております。支援困難ケースとは具体的な内容を教えてください。</p>
<p>林リーダー</p>	<p>地域で生活する家族等には、障害があるゆえに地域生活を継続することが難しいケースがあります。例えば、8050問題のように親が高齢で介護が必要になり、子どもを支援することができなくなった場合や行動障害があるため、家庭で対応に苦慮している場合にどのように支援を進めていけば良いか等、このほかにもたくさん事例があります。支援する側も難しいケースがあります。地域の一つの機関だけでは対応できないため複数の機関が協力して、どのような支援をすれば地域で生活できるのかを協議します。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>関係者は支援困難ケースをイメージできますが、市民の方は具体的なイメージをすることは難しいです。分かりやすく伝えることもみんなの地域自立支援協議会として重要なことだと考えます。</p> <p>続いて、普及・啓発プロジェクトについて何かご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。</p> <p>本プロジェクトは今年度で終了いたします。今後については、相談支援事業の一つであるピアカウンセリング業務に引き継いでいくことについて、皆様いかがでしょうか。新しいテーマを作成するときやバージョンアップ等の作業に関しても、ピアカウンセリング業務が継承するとい</p>

	うことですか。
丹羽リーダー	動画の作成等の作業は、市内共同生活援助事業所の管理者である本田委員が行いました。今後も本田委員に動画を作成いただくことは了解いただいています。
杉浦委員	資料の54頁では、東松山市ホームページに掲載するとしておりますが、既に掲載されていますか。
丹羽リーダー	本日の全体会で委員の皆様を確認していただき、ホームページに掲載いたします。
杉浦委員	市のT w i t t e r等のSNSを活用しても良いと思います。ホームページの場合、興味がある人にしか情報が届かないためです。
朝日会長	市ホームページに関わらず、多様のチャンネルに掲載することをご検討ください。
戸森委員	動画について、言葉のイントネーションに違和感を覚えます。言葉は感情を伝える手段になるため、コミュニケーションを取っていると感じられるようにしても良いと思います。市ホームページは令和5年6月に見直しされると聞いています。該当のページが見つげづらいこともありますので、分かりやすくしていただきたいです。
朝日会長	ご意見として、受け止めていただきたいと思います。最後に総括として、東松山市地域自立支援協議会の特色は、他の市町村と異なり、プロジェクトや連絡会議を中核として、実践的な動きの中から様々なことを発信しています。それが継承されるとともに課題も見えてきています。方向性は協議会としても大事にしていきたいながら、更なる発展を望みたいと思います。 これで議事を終了し、議長の職を解かせていただきます。皆さんご協力ありがとうございました。
4 その他 事務局 (障害者福祉課 成川主幹)	朝日会長ありがとうございました。続きまして、次第「4 その他」でございますが、幹事会委員の南澤委員から情報提供がございます。
南澤委員	— 地域生活支援拠点に係る研修の案内 —

<p>事務局 (障害者福祉課 成川主幹)</p> <p>健康福祉部 今村部長</p> <p>事務局 (障害者福祉課 成川主幹)</p>	<p>その他、委員の皆様から何かございますか。ないようでしたら、事務局よりご連絡申し上げます。</p> <p>本会議における委員皆様の任期でございますが、令和5年5月31日までとなっておりますが、在任期間における会議は、本日が最終日となっております。コロナ禍ということもあり、途中、会議を書面会議へ切替ざるを得なかったり、会議の日程を変更せざるを得なかったりするなど大変ご不便をおかけした点もあったかと思いますが、慎重かつ丁寧なご審議を賜り誠にありがとうございました。</p> <p>連絡事項は以上でございます。</p> <p>それでは、閉会にあたり健康福祉部長の今村よりご挨拶申し上げます。</p> <p>— 挨拶 —</p> <p>以上をもちまして令和4年度第2回東松山市地域自立支援協議会全体会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和5年4月7日</p> <p>署名委員 武田 耕典</p> <p>署名委員 羽鳥 良江</p>	